Gunma Museum Of Natural History

友の会通信

2013 Vol. 29

～群馬県立自然史博物館友の会～

ウマノオバチ コマユバチ科

〈学芸係　高橋克之〉

2009年5月22日　当館の資料整理ボランティアの青沼秀彦さんが捕虫網をもって息せき切って第二研究室に飛び込んでこられました。青沼さんは昆虫についての造詣が深くたくさんの昆虫写真や標本を提供して下さっています。今回は安中の公園でなんとウマノオバチを採集し、写真撮影にも成功したというのです。私自身、博物館で昆虫を担当していながら、これまで野外でウマノオバチは見たことがありません。標本も昭和14年に田中恒司さんが採集した雌雄1組のみです。毎日のようにフィールドに出られている青沼さんだからこそ見つけられたと思います。さっそくこのハチも館に寄贈して頂きました。収蔵番号はII35066です。

ウマノオバチの和名はメスが産卵管がウマの尾のように長いことに由来します。シイ類、カシ類、ナラ類の内部深くにすんでいるシロスジカミキリの幼虫に卵を産みつけます。里山のコナラ林が放置され伐採更新されなくなったため、シロスジカミキリが産卵しにくくなってきました。樹皮の厚い太い木には産卵できないからです。結果的にウマノオバチも数を減らしてしまい群馬県での評価は絶滅危惧Ⅱ類になっています。

標本にして乾燥すると産卵管はきれいに縦方向に根元まで裂けてしまいます。産卵管は3つのパーツが合わさってできていたのです。体長約2センチメートル。体と翅は黄褐色で、よく見ると前翅に3個、後翅に1個の黒褐色の斑紋があります。いつかは生きているウマノオバチを見てみたいと思っています。

■昆虫に関わる体験活動は雨天のため中止となりました。

▲ウマノオバチ写真（2点共）／青沼秀彦

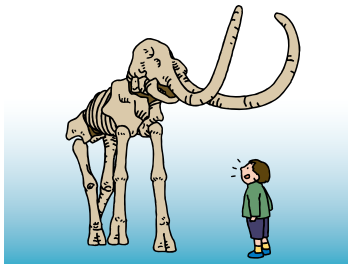
シロスジカミキリ

この幼虫の体にウマノオバチが産卵する

上の写真の個体を標本にしたもの

平成25年度「友の会総会」開催

【平成25年】
5月12日(日)



平成25年度の総会が5月12日（日）午前10時から博物館学習室で行われ、18名の出席がありました。総会では川原英雄友の会会長、そして自然史博物館住谷次長の挨拶に続き、昨年度の事業報告及び決算報告、今年度の事業案並びに予算案について審議しました。また、この日は当館が行う「博物館の日」でもあり、「学芸員による特別解説」や「化石のレプリカづくり」などが行われ、たくさんのお客さんに参加していただきました。

平成25年度友の会役員の紹介

今年度は、運営委員2名、事務局員2名が変わりました。
よろしくお願いします。

《平成25年度の役員･事務局》

【会　　長】 川原 英雄
【副 会 長】 山田 利和
　　柚木 郁
【運営委員】 角田 寛子・堀越 友子
　　櫻井 昭寛・三友 賢一
【運営委員】 北爪 二郎・伊丹 清美
【監　　事】 松井 則幸・瀬下 保
【顧　　問】 横田 英一・青木 道雄
　　原 浩一郎・池下 隆雄
【事 務 局】 住谷 親介・戸所 雄彦
　　小須田 健志

友の会講演会

友の会総会後に当館長谷川名誉館長を講師に迎え、友の会講演会を行いました。今回のテーマは「氷河期における日本の大型肉食動物を探る　―クマ、オオカミ、トラ、オオヤマネコ―」でした。講演の内容は、大型肉食動物たちが氷河期にどのようにして日本に渡り、それぞれの地域でどのように生存競争に勝ち、敗れて絶滅していったのかを種類別に説明してくださいました。また、実物の化石も準備していただき、参加した会員を前に集め一つひとつ紹介してくれました。

博物館の中庭より

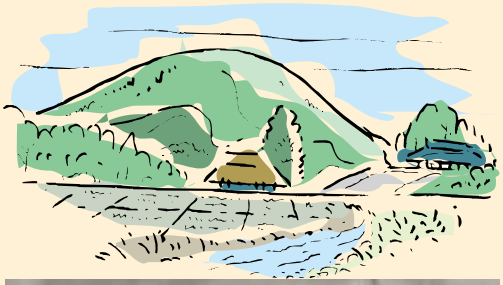
世界最古の樹木「ジュラシックツリー」

春先に新聞でも紹介されましたが、正式名称「ウォレマイパイン」通称「ジュラシックツリー」が開花しました。この樹木は1994年オーストラリアで約100株発見されています。中生代の地層から化石として見つかることから、生きた化石と呼ばれます。国内での開花例はほとんどない、貴重な花が当館の中庭で咲きました。

雌花

私が見つけた自然 友の会会員からのおたより

『ホウネンエビ』



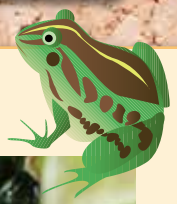
ホウネンエビ友の会の体験活動『昆虫に関わる体験活動』が雨天のため中止になった日、私の家（高崎市本郷）の近くの水田に観察に出かけたときのことです。同行した小4の孫が、一週間前に田植えをした水田の中に魚が泳いでいるとの声で、駆けつけてみると、魚ではないが体長1～2cm程度で半透明でやや淡い緑色をした生き物でした。早速持参したペットボトルの簡易採集容器に採集し調べることになりました。

昆虫図鑑、百科辞典、パソコンなどを駆使して調べました。その結果、節足動物で甲殻類に属し、生きた化石と呼ばれる、ホウネンエビであることが確認されました。節が20程度、足が30～40本あり、仰向けで泳ぐユーモアのある動物でした。昔から水田に大量に発生すると豊作になると言われ、縁起の良い生き物とされてきたようです。

ただ、田植え後まもなく発生し、2～3週間程度姿を現すだけで、目立たなく気づかないことが多いようです。おもしろい発見ができたと気分の良い一日になりました。

（柚木　郁）

『我が家の住人（トウキョウダルマガエル）』



3～4年前から庭のメダカの水槽にトウキョウダルマガエルが住み着き、最初は1匹でしたが今では5～6匹、昨年からの越冬したものや今年から住み着いた若いカエルも居ます。実は水槽といってもプラスチック箱をいくつか並べ土や水草を入れただけで自然風にメダカを育てています。ここからはシオカラトンボが巣立ったこともあり今でもヤゴが何匹か住んでいます。

（北爪　二郎）

INFORMATION

友の会視察研修旅行のお知らせ

今年度は、栃木県の「葛生化石館」並びに「なかがわ水遊園」を予定しています。
期日は10月20日（日）です。募集案内は後日発送します。定員は45名を予定しています。
応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。

【葛生化石館】

栃木県葛生地域は、石灰岩を利用した工業がふるくからあり、この地域の発展を支えてきました。石灰岩は、はるか昔の生き物たちが積み重なってできたもので、私達はそういった生き物達に支えられて今の文明社会を築き上げているのです。かつて、このあたりはゾウやサイといった巨獣の住む場所でした。数十万年～数万年前の動物たちの化石が多く見つかっており、それらを見学できるだけでなく、日本中の石灰岩を比較、観察するコーナーもあります。

【なかがわ水遊園】

栃木県唯一の水族館で、関東一の清流那珂川からアマゾン川、サンゴ礁の魚まで約60の水槽が設置されています。ふんだんに太陽光が差し込む水底は海にはない川の魅力です。自然光に照らされて、生き生きと魚たちが泳ぐ姿を目の当たりにできます。海の水族館では味わえないようなことが体感できる水族館です。見所はたくさんありますが、太陽と緑と魚がコラボレーションした那珂川を再現した水槽がその一つ。また、360° パノラマのチューブ型トンネル水槽から見る大迫力のアマゾン大水槽も大変人気があります。

これからの友の会イベント

◆観察会「コケの観察」
期日11月17日（日）13:00～16:00　場所：自然史博物館周辺
◆天体観望会「昼間の星を観察しよう」
期日2月9日（日）10:00～12:00　場所：県立ぐんま天文台

友の会入会のお知らせ

年会費

①一般会員 —— 3,000円
②高・大学生 —— 2,000円
③小・中学生 —— 1,000円
④家族会員 —— 5,000円
⑤賛助会員（1口）—— 10,000円

★10月以降の入会は、年会費が半額となります。
★入会されますと、博物館入館料が無料になるなど、多数の特典があります。

わたしが見つけた自然　募集中

自分の身の周りで、かわいらしい自然を見つけたとき、珍しい自然と出会ったとき、その瞬間をカメラで記録し、写真とその時のエピソードを添えて自然史博物館友の会へ封書またはメールでお送りください。友の会通信で紹介させていただきます。なお、応募していただいた方全員にオリジナルポストカードを、友の会通信で紹介させていただいた方には素敵な賞品をプレゼントいたします。

賛助会員（7月末現在）

以下、法人・個人の方に趣旨賛同いただきました。ありがとうございました。

（有）山田会計・佐藤春利・齋藤紀恵子・川原英雄

編集後記

先月、田植えの手伝いをしていると、田んぼのまわりに三つ葉のクローバーが沢山生えていました。
四つ葉がないか一生懸命探しているとあったのです。
ほんの小さな見つけた！！でしたが、感動できました。

「友の会通信」編集委員 伊丹清美

群馬県立自然史博物館
友の会通信2013 vol.29

■平成25年8月20日発行
■編集・発行　群馬県立自然史博物館友の会　〒370-2345　群馬県富岡市上黒岩1674-1
TEL.0274-60-1200　FAX.0274-60-1250　Home Page　http://www.gmnh.pref.gunma.jp/